

# 未来づくり懇談会（末広町）会議録

日 時：平成29年7月26日（水）

18：30～20：15

場 所：末広町自治公民館

出席者：市長、教育長、総合政策部長、  
スポーツ推進班長

1 開 会 18：30 進行：秘書広報課長

2 あいさつ 矢板市長

3 出席者紹介

4 矢板市設定テーマ

○（仮称）とちぎフットボールセンターの整備について

・資料に基づき、経過等を説明。

現在は、たかはら那須スポーツクラブ（以下「TNS」）から提出された事業の確実性があるものかを聞き取り等をしている。事業の確実性が見込めるのであれば、この事業を委託することを含めてさらに検討を進めていく。

平成28年9月	民間活力導入可能性調査業務を委託
平成29年6月	民間活力導入可能性調査の結果を議会全員協議会で報告。
平成29年7月	NPO法人たかはら那須スポーツクラブから民設民営での実施提案書提出。
平成29年10月	事業計画検証業務を委託 検証結果、実現可能性ありと報告。
平成29年12月	12月定例会でNPO法人たかはら那須スポーツクラブに施設整備及び運営を委ねる旨を表明。

Q1 聞き取り調査後に決定するのは、いつ頃と考えているか。

A1 議会の承認もあるが、早ければ今年の12月に土地の賃貸者契約といった話まで行くと思うが、いつまでとは決めていない。

Q2 民間に委託する場合、営利活動として行うこととなるので、維持活動はできるのか。事業継続の意味で、どうやって収益を上げていくのか。

A2 今回の提案は、整備のみではなく管理運営も任せてほしいとの提案となっている。TNSからの提案内容、事業継続が確かなものなのか確認していきたい。

事業予算計画について、十分な内容なのか、市では判断できないので、民間事業者提案書の内容を見てもらっている。専門家の意見も聞きながら事業実施の確実性について判断をさせていただく。

Q 3 営利を目的とした場合、平日夜遅くや日曜の朝早くから活動すると思う。市役所が丸投げにした場合、そういう心配もあるので指導してほしい。

A 3 丸投げという形にならないようにしたい。頂いたご意見はTNSに報告する。皆さんの懸念する点は、例えば時間や夜間照明などがあるかと思うが、住宅と距離や照明の明るさなどは、少し時間をおいて説明させていただく。

O 4 市でTNSの話を活用しない場合、今後フットボールセンターの話は一切なしにするということか。近隣と比べても矢板市は見劣りしている状況なので、ぜひやっていくべき事業だと考えている。

Q 5 やはり矢板はサッカー場で進むべき。やるならやると言ってほしい。小山市に先を越されたらできるものもできなくなる。TNSは堅実でかなり力がある。採算性も重要だが、公共で行うなら青少年育成のために採算性以外の面でどう使うかも考えてほしい。

A 5 TNSとの協議が不調に終わった場合、計画をとりやめるということは考えていない。フットボールセンター計画と併行する形で公共施設再配置の取組に着手している。矢板市内のスポーツ施設全体のあり方の中で、フットボールセンターについても考えていかななくてはならない。

また市ではスポーツツーリズムの推進を進めており、スポーツを通じて交流人口を増やそうと考えているので、計画をゼロにするというわけにもいかない。財政的に節約できて、民間活力を目いっぱい活用して出来るのであれば、地域住民との協定を締結して、時間や交通渋滞の対策を考慮して、当初の計画をベースにして取り組んでいきたい。

Q 6 委託料、管理費は年間どれくらいを支払うのか。

A 6 フットボールセンターの管理委託料は支払いしない。TNSの方からも、整備についての費用は頂かなくても結構ですとの申し出を受けている。代わりに、土地の無料貸付、クラブハウス、照明設備の固定資産税の免除というような要望は受けている。また直接の整備費や管理委託等の費用については、もらわないとしているが、スポーツコミッションの機能をTNSに任せてほしいと言われている。その経費や部活動の指導員派遣事業をすることに対して支援をしてほしいという提案は頂いている。

Q 7 施設の老朽化を考えた場合、仮にサッカー場ではなく東小を作ったらどう考えるか。半分の敷地に小学校を建てて、残りの半分に総合体育館や武道館、弓道場を整備し、現在の東小の敷地をサッカー場にする事で、小学校建設時の仮設費用やその他の施設もスライドして再配置することができるので、一石五鳥六鳥にもなるのではないか。

A 7 確かにそのとおриと思う。公共施設再配置で4割削減を目標としている。JT

跡地の購入は、サッカー場で起債しているの、仮にサッカー場をやらない場合、国から一括償還しろという話になりかねない。少なくとも学校ではなくスポーツ施設にする必要がある。ただTNSの提案では1/3のスペースが空くことになるので市体育館やあるいはプールなどを作り複合的な施設にすることで、単なるグラウンドではなく矢板市版の総合スポーツゾーンを作ることができれば、もっと利用の幅が広がるのではないかと思います。

Q 8 引込線の跡地は現状のままなのか。

A 8 今のところ計画はない。フットボールセンター計画ともリンクはしていない。逆に何か提案があれば聞きたい。

Q 9 日本サッカー協会の補助金の額は、TNSが入ることによって変わるのか。

A 9 規模が縮小されたりしても、補助金の額は変わらないという回答を得ている。サッカー振興くじについては、逆にTNSが事業主体になった方が補助金の額が上がる可能性がある。

Q 10 スポーツツーリズムは施設が良いところにしか来ない。施設が揃わない状態でスポーツツーリズムは矢板でできるのか。

A 10 公共施設再配置計画を作っているところだが、すべてのスポーツ施設は生き残れない。維持管理にかかる経費を集約する中で多機能化できる施設ができればと思っている。

## 5 意見交換

Q 1 育成会、子ども会に参加する方が少ない。やめてしまったり、もともと参加しないという方もいる。市として参加についてどう考えているか。

A 1 育成会、子ども会の参加率が低くなっているのは全国的な問題となっている。役員をやるのが嫌だとか、スポーツなど集団行動が不得意な子たちは参加したがらないなどの理由で参加率が減っている。市についても同じで減少傾向となっている。子ども会育成会連合会なども話し合いはしているが、任意団体なので強制的に参加させることはできない。なかなかいい解決策は見つからないのが現状となっている。

Q 2 新聞等で栃木県の児童・生徒の学力が低いという記事があった。教師が児童・生徒に接する時間が少ないからではないか。

A 2 新聞紙上で栃木県の算数・数学の成績が全国最下位と報じられた。しかしよく分析をすると、1位と47位がそんなに離れているわけではない。離れていても2~3点の間に全国の平均が詰まっている。学校は一生懸命やっているが、結果として出ていない。

平成 29 年度

家庭学習ノートコンテストを実施。

塾等との連携による学習教室の実施。

	各学校では、授業改善に向けての研究等行っていく。 学力向上応援団・道徳教育応援チーム・学力向上推進リーダー事業を通して国語・算数・数学・道徳の授業改善、指導力の向上を図っている。
平成 29 年 12 月	英語科 DVD を作成し、市内全小学校に配付
平成 30 年度	学力向上応援団事業の継続。 学力向上推進リーダーを 1 名から 2 名に増員。 リーダー配置校を増加。 英語科 DVD（第 2 弾）を作成予定。 外国語活動の専科教員を小学校 4 校に配置。

Q 3 教師の勤務評定を自己評価し、管理者が評定をし、ランク付けをして給料に反映するということが、人間が人間を評価・評定することで給料が違ってくるということに矛盾を感じる。

A 3 先生の評価をして給料が上がる下がるとのことだが、民間では当然となっている。先生は評価のしづらい職業であり、1 人の子どもを 1 人の教師が全て見ていくわけではない。現在は民間的な方法を入れて少し差をつけようということにしているが、給与を変えているのではなく手当を変えている。矢板市教育委員会だけでなく、一斉ではないが全国で導入がされてきている。

Q 4 学習も大事だが、それで生きる力につながるのか。豊かな心情が育たない。

A 4 おっしゃる通り、生きる力をつけるのが教育の最終目標。新聞や報道は学力のランク付けをするが、単にランク付けではなく生きる力、大人になってどうやって生きていくかを教えるほうが学校教育としてはやらなくてはならないこと。地域の皆様にも協力をいただきたい。

Q 5 矢板駅を出ると暗くて寂しい。中もキオスクもなく薄暗くて寂しい。コンペでお店を出す人を募ったらどうか。また市内には 3 つも高校があるので高校生が望むものを考えてほしい。

A 5 高校が 3 つもあるまちなので、若い方にも喜んでもらえるまちを作っていきたい。今年は矢板武塾を高校生のみで、駅前の活性化に高校生目線で行っている。

平成 28 年度	矢板武塾の開催 参加人数：13 人（うち高校生 9 人）
平成 29 年度	矢板武塾の開催 塾生主導で「高校生の居場所づくり」について検討。参加人数：11 人（すべて高校生）
平成 30 年度	高校生を主体とするまちづくり団体の活動を目指す。 継続的に高校生が主体となった活動を支援。